



## 御殿場市で「自衛隊入隊予定者激励会」を実施

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、2月25日（日）、御殿場市交流センター「ふじざくら」において開催された、御殿場市主催の「自衛隊入隊予定者激励会」の開催に協力した。御殿場市内から入隊予定の11人が会に臨み、家族や御殿場市長、御殿場・小山家族会、御殿場市自衛隊協会、隊友会御殿場・小山支部、静岡県防衛協会及び自衛隊募集相談員沼津支部など多くの関係者らが出席した。

激励会では、主催者である若林洋平市長が「自衛隊に入隊し生活環境が大きく変化すると思うが、まずは3日、そして石の上にも3年、陸上自衛隊の駐屯地が所在する地元出身者の代表として勤務してもらいたい」と激励し、続いて静岡地本部長が歓迎の挨拶を、来賓代表として元自衛官でもある御殿場市自衛隊協力量長・和田篤夫県議会議員が「同期の絆を大切に」と激励した。

その後、映像による防衛大臣の激励メッセージ放映、議員・部隊長等の祝電披露などが行われ、入隊予定者は真剣な面持ちで傾聴し、入隊への決意を新たにしているようであった。

最後に入隊予定者を代表して、陸上自衛隊一般曹候補生として入隊予定の木川将大君が「地元出身者として恥じぬよう、立派な自衛官になれるように頑張ります」と挨拶した。

静岡地本は、今後も自治体及び各協力団体と連携して入隊・入校予定者を継続的に支援し、連携を深めて自衛隊への志望者の増加を図っていく。



## 「将来の雇用情勢」等をフリーディスカッション

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、2月28日（水）、本部庁舎（静岡市）において「平成29年度自衛隊就職援護担当者」と労働行政機関との連絡会同」を実施した。

本会同は、自衛隊における就職の援助に直結した情報共有及び意見交換を実施し、相互の協力関係の強化を図ることを目的として行なわれた。陸海空の自衛隊援護担当者、静岡労働局職業安定部職業対策課長をはじめ、県内駐屯地等と繋がるの深い静岡・浜松・沼津・御殿場・焼津の各公共職業安定所長等及び自衛隊援護協会東京支部の担当者の19人が参加した。

会同は静岡地本援護課長及び静岡労働局職業対策課長の挨拶から始まり、自衛隊援護担当者から自衛官の退職制度の特性及び本年度の就職援護状況を説明。引き続き各公共職業安定所長等から管内における雇用情勢について説明があり、最後に今回のテーマである「将来の雇用情勢」「大規模工業地帯の雇用状況及び今後の新設情報」についてフリーディスカッションと情報交換を行なった。

フリーディスカッションでは、静岡労働局側から任期制隊員について、また、自衛隊側から近年の県内求職・求人傾向について積極的な質疑応答が行われ、相互に理解を深めた。

静岡地本は、引き続き労働行政機関と自衛隊援護担当者間の協力関係強化を図り、円滑な就職援護業務の推進に努め、隊員が後顧の憂いなく任務に邁進できるような環境を醸成していく。



## 募集広報のベテランがラジオ番組で自衛隊の魅力をPR

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、2月28日（水）、FMしみず「マリナール」において放送のラジオ番組で隊員募集の試験内容やイベント情報を発信した。

これは、毎週水曜日午前10時から約10分間、隊員などが出演する「自衛TIMES★静岡」というラジオ番組で、隊員の生の声を通じて地元市民の自衛隊に対する理解促進を図っているもの。

今回出演したのは、本部募集課で勤務している清水克巳陸曹長。清水曹長は募集課で企画係長としており、主に募集に関する企画立案や対外的な情報発信する役割を担っているが、これまで伊豆地区の隊員募集を担っていたベテラン広報官の一人でもある。

昨今の有効求人倍率の上昇等の要因により公務員の人気が下降傾向であることから、今後の志願者増加に繋げるため、自らの自衛隊経験を通じて感じた「唯一無二のやりがい」と「ほかでは味わえない魅力」をベテラン広報官の視点を交えて熱く語り、若者への挑戦を訴えた。

静岡地本は、今後もあらゆる情報発信の場を活用して、自衛官募集や各種説明会などイベントの告知を行い、ベテラン広報官に続く熱意ある後継者を募集し、防衛基盤の強化を図っていく。

